

5. キャリアアップ支援事業

県士会では本年度より、「言語聴覚士の自己研鑽及び業務に役立つ資格取得等の支援を行う」ことを目的としたキャリアアップ支援事業を行っております。本事業は、対象となる会員に対して研修にかかる費用（受講費や交通費等）を助成するものとなっております。

本年度申請をいただき助成を行った研修は下記の4件です（掲載は申請日順）。

- ・『Webで学べる発達障害のアセスメントセミナー 専門家の実践講座 診断と評価のために WISC-IVやWAIS-IVの活用を通して』（公立能登総合病院 藪越文佳会員）
- ・『PESOC®レベル1ワークショップ』（金沢医療センター 清水聡子会員）
- ・『PECS®レベル1ワークショップ』（金沢医療センター 宗石順子会員）
- ・『認定言語聴覚士（聴覚障害領域）』（恵寿総合病院 木村聖子会員）

詳細につきましては県士会のホームページに掲載されております。皆様により一層ご活用していただくために、適宜見直しを行いながら次年度以降も運営して参ります。

学術研修局統括理事

金沢こども医療福祉センター 藤田 徹

研修報告書①

所属	公立能登総合病院	氏名	藪越 文佳
日時	2021年11月21日		
資格 研修会名	Webで学べる発達障害のアセスメント 専門家のための実践講座－診断と評価のために－ WISC-IVやWAIS-IVの活用に関して－		
会場・場所	Web研修		
研修内容	<p>自閉症スペクトラム（ASD）の方を支援するためにASDの特性（三つ組み）や認知特性を確認すると共に心理検査の結果や行動観察から、診断に必要な情報を正確に提供出来る専門家を養成することを目指した研修。心理検査で見べき視点を開設し所見の取り方の実習と解説を行なう内容。</p> <p>事前に動画配信で2つの研修を受けた。1つには「ASDの診断と評価の流れ」として精神科医よりDSM-5やICD-11の概念やウィングの三つ組みについての説明と開催者であるよこはま発達クリニックの臨床の流れ、ASDに合併しやすい問題についての講義を受けた。2つ目は心理師の先生より「心理検査を実施・解釈する上での留意点とWISC、WAISで見られるASDの特徴」についての内容で、下位検査中に現れやすいASDの特徴の解説があった。</p> <p>当日の研修ではWISC、WAISの検査場面のビデオをそれぞれ1症例ずつ見ながら「認知特性のワークシート」「診断のための所見まとめ」「支援プラン」について記載し、その後、少人数のグループに分かれてグループディスカッションにて意見のまとめと掘り下げを行なった。最後に「支援プランを立てる際のポイント」についての講義を受けた。</p>		
成果 感想 今後の抱負	<p>本研修に参加させていただき、普段経験的な視点で曖昧に観察している部分をウィングの三つ組み（社会性障害、社会的コミュニケーション障害、社会的イメージの障害）に立ち返って観察する視点をトレーニングできた。また、様々な年代におけるASDの方の支援ニーズについて具体的な事例を知ることが出来た。</p> <p>検査で見られるASDの特性に関しては個人的に特徴だと感じていた現象が、講義や演習でも解説されることで、自身の視点が誤りでなかったことが確認できると共にどのように説明（言語表現）したらよいかを教示いただき、勉強になった。</p> <p>今後は診断に生かせるようなレポート作成をこころがけながら、適切な支援プラン作成、ニーズに応じた支援が行えるように日々の臨床に励みたい。</p>		

研修報告書②

所属	金沢医療センター	氏名	清水 聡子
日時	2022年1月9日～2022年1月10日		
資格 研修会名	PECS®レベル1ワークショップ		
会場・場所	Web研修		
研修内容	<p>絵カード交換式コミュニケーションシステムのレベル1を受講した。 教育へのピラミッドアプローチについて学んだ。 PECSの1から6までの6つのフェーズについて学び、実践を交えて手続きを学んだ。</p>		
成果 感想 今後の抱負	<p>小児を担当する際の指導のひとつの引き出しになった。システムの技術的などころも勉強になったが、自閉症児の問題行動が余暇を過ごすスキルが足りず、問題行動につながっている可能性があるということが印象的だった。今回は導入編だったので全体像をつかみ、基礎的なところの知識を得ることができた。PECSのシステムを指導の場だけではなく、家庭や園、学校でも使っていけるようにするためには多くの協力が無いと難しいとも感じたが、自閉症児が苦手とする自発的なコミュニケーションの成立への可能性も感じた。手話やサイン言語とは異なり、専門知識がなくても受け取った相手は本人の訴えを読み取ることができることで、保護者も取り組みやすいかもしれないと感じ、発語が難しいダウン症や難聴児にも応用していけそうと感じた。PECSのフェーズ5～6の文の構成練習の講座も今後受講したい。</p> <p>当院は健診時に難聴が疑われて検査に来院される未就学児が多い。多くは発達に問題のあるお子さんが多く、コミュニケーション指導の際に活用していきたい。</p>		

研修報告書③

所属	金沢医療センター	氏名	宗石 順子
日時	2022年1月9日～2022年1月10日		
資格 研修会名	PECS®レベル1ワークショップ		
会場・場所	Web研修		
研修内容	<p>絵カード交換式コミュニケーションシステムのレベル1を受講した。 教育へのピラミッドアプローチについて学んだ。 PECSの1から6までの6つのフェーズについて学び、実践を交えて手続きを学んだ。</p>		
成果 感想 今後の抱負	<p>PECSの概要について理解した。受講するまで全く知らない指導法だったので、全体像をつかめた。絵の理解や弁別が出来なくても導入可能というのが、今まで私が指導で使用していたコミュニケーション指導方法と異なる点で魅力を感じた。また、強化子の使用方法や、教育へのピラミッドアプローチなど、PECS以外の指導に際しても使用可能と思われる考え方を学ぶことができ、今後の指導に生かせると思った。実践練習も行ったが、手続きを誤らないように練習してから指導に反映させていきたい。今後はレベル2など発展的なワークショップにも参加し、実際に指導に使用していけるようにしていきたい。</p>		

研修報告書④

所属	恵寿総合病院	氏名	木村 聖子
日時	2021年8月28日～2022年1月30日		
資格 研修会名	認定言語聴覚士（聴覚障害領域）		
会場・場所	Web開催		
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚リハビリテーションの概念 ・遺伝子診断、新生児聴覚スクリーニングの現状 ・最新の聴覚補償機器 ・高齢難聴者の実態と補聴 ・他覚的聴力検査、平衡機能検査 ・音場検査 ・実耳測定（演習含む） ・成人の補聴器適合と装用指導 ・高齢難聴者のリハビリテーション ・成人難聴者のコミュニケーション、評価と訓練 ・小児の補聴器適合と装用指導 ・前言語期から初期言語習得期の評価・指導 ・幼児期後期から学童前期の評価・指導 ・学校教育における難聴児の支援 - 障害認識とコミュニケーション ・青年期の就労支援・障害認識・情報補償 ・難聴を伴う重複障害児の評価と指導 ・成人の人工聴覚器 評価・指導 ・小児の人工内耳 評価・指導 ・人工内耳の遠隔マッピング ・社会保障制度と補装具費支給 ・難聴児者の地域支援 ・聴覚情報処理障害の鑑別とカウンセリング 		
成果 感想 今後の抱負	<p>事例検討「前言語期から初期言語習得期の評価・指導」を発表しました。自分が臨床で困っていることも提示し、全国の小児難聴に関わっておられる先生方からアドバイスいただくことができました。聴覚分野は人工聴覚器においても日々進歩しており、新しい知識を学べた貴重な講義の数々でした。今後も自己研鑽に努め、患者さんの力になれるよう励んでいきます。</p>		

6. 一般の方向けイベント

1) 「言語聴覚の日」

■ 「言語聴覚の日2021」開催報告

開催日時：令和3年8月29日(日)
11:00～14:00

開催場所：学びの杜ののいち カレード



2007年より始まった広報部担当の「言語聴覚の日」イベントも今年で14回目となりました。昨年は、Web上での川柳コンテストのみで行いましたが、例年行っていたイオン御経塚の閉店やコロナの影響もあり、今年は学びの杜ののいちカレードにて展示のみでのイベントとなりました。

何事も初めての試みであり、開催に向けてもコロナの感染状況が変化する中での不安もありました。しかし、皆様の協力により川柳コンテストは238作品の応募となりました。また、図書館の静かな雰囲気であったため、いつもと違った雰囲気です。ゆっくり展示を見ていただく環境が出来たと思います。

来場数は20数名でありましたが、コロナ禍で開催するにあたっての最大限の事は出来たのではないかと担当メンバーの中では感じております。

お忙しい中、川柳コンテストの応募に協力くださった皆様、告知に協力いただいた皆様に感謝申し上げます。来年もどのような状況になるかわかりませんが、無事開催できることを願います。

デイサービス・ベル金沢 田中 弥生 ニュースター2021.9



■ 2021川柳コンテスト(入賞作品)

全国より応募総数：238句
掲載は131句

金賞	ワクチン接種 僕はファイザー 君どこの
銀賞	口に出す 言葉と想ひ すれ違ひ 「ああ」や「うう」 ママには解る 児の言葉
銅賞	今できた 嬉し涙と 笑みこぼれ 「まままま！」 ママかマンマか 解るママ 君の声 届いていると 目で伝え
入選	聞こえたよ 言葉にならない ありがとう マスクして いつでもどこでも 舌体操♪ リハビリし 家族に言えた 「ありがとう」 アレコレソレ 夫婦の会話の パスワード コロナ禍に 手話でお話し 飛沫無し

2) 県民公開講座

■ 「能登で新・お食い締め」開催報告

開催日時：令和3年6月6日(日) 13:00～16:20

開催方法：Web (Zoom) 開催

講 師：愛知学院大学 心身科学部准教授 牧野 日和 氏

「人生最終段階の食支援」とのテーマで、看取り期支援の本質や、人生会議の意味・適期、お食い締めについての意味・進める上での注意点等を中心としたお話がありました。1つ1つ根拠に基づき、患者様のエピソードを交えながらお話をさせていただきました。その中で、私が、特に心に残ったのは、看取り期の根幹は「対象者を癒しながら支援をすること」であり、ご本人が「良い人生だった。幸せだった」と思ってくれるような支援を、ご家族が「悲しいけれど、ここまでやってくれた。お礼を言えた」と思い納得できるような支援を、という言葉でした。日々の仕事の中で、食事に対しての支援が上手くいかない諦めてしまいそうになる事がありますが、ご本人やご家族のお気持ちを聞きながら、アセスメントを行い、リスクなどを含めた話し合いを重ね、その時々で、皆が納得できる様な支援ができるように心がけていきたいと思いました。

なお、講義の前段として、「訪問看護ステーションみなぎ」の中村先生と「食力の会」の森田先生から、能登地区での食支援についてお話がありました。スーパーの一角に栄養について気軽に相談できるスペースを設け、栄養補助食品を用いたサラダなど嚥下食のランチを提供する等の活動報告があり、とても参考になりました。

金沢春日ケアセンター 野々 恵 ニュースレター2021.9

7. 他団体との連携事業

1) 石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会研修会

■研修会① リハビリテーション専門職活用支援事業 導入研修

石川県PT・OT・ST連絡会、県リハビリテーションセンター 共催

【開催日時】 令和4年1月22日(土) 10:00~17:00

【開催方法】 ハイブリッド研修 (Webおよび参集)

【午前の部】 特別講演「地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション」

講師 日本リハビリテーション病院・施設協会 名誉会長 浜村 明德 氏

講演 「各専門職における地域リハビリテーションに必要な視点」

講師 PT・OT・ST士会会長

【午後の部】 講演 「適切な介護予防ケアマネジメントとアセスメント支援について」

「効果ある短期集中予防サービスとセルフマネジメント支援について」

講師 介護老人保健施設ハーモニー事業部 部長 名倉 和幸 氏

【参加人数】 65名 (会員3名、会員外62名: PT33名、OT27名)

■研修会② 市町事業に関わるリハビリテーション専門職 育成研修

【開催日時】 令和4年3月19日(土) 14:00~17:00

【開催方法】 Web研修

【参加人数】 58名 (会員7名、会員外51名: ST7名、PT23名、OT26名、他2名)

【内容】

2022年1月22日に石川県リハビリテーションセンターと石川県PT・OT・ST連絡会主催の市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修①に参加しました。午前の部に特別講演「地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション」日本リハビリテーション病院・施設協会名誉会長浜村明德氏の講演、そしてPT、OT、ST士会会長による「各専門職における地域リハビリテーションに必要な視点」の講演。午後の部は介護老人保健施設ハーモニー事業部 部長名倉和幸氏による「適切な介護予防ケアマネジメントとアセスメント支援について」「効果ある短期集中予防サービスとセルフマネジメント支援について」の講演があり長丁場の一日研修でした。この一日で、地域リハビリテーションとは何か?そして具体的な支援とは何か?ということがすべて理解出来る内容となっていました。参加して感じたのは、地域に出てSTは何が出来るのか?これからもっと活躍出来る場があること。そして今自分たちがやっていることこそ、地域リハビリテーションであるということ。徳田会長から伝えて頂いた自分ごととしてやっていくこと。多くの学びがありました。ただ参加したST自体が少なく、もっと多くのSTが知るべきだと感じました。

2022年3月19日には、研修会②が開催されました。参加者は60名、うちSTは7名の参加でした。主な内容としては、リハ専門職の状況アンケートの結果解説と地域リハビリテーションのリーフレットが改訂されたので、その解説をPT、OT、STからそれぞれ行いました。また、地域ケア個別会議、短期集中予防サービス、通いの場からそれぞれ実践報告が行われ、グループに分かれての討議を含め、全てWeb会議システムで行われました。実践報告に関してはSTからの報告はなかったのですが、それは何故か?ST自体の数が少ないこともありますが、参加している事業が少ないことが現状の問題としてあります。研修会①、②を含めて現状を知り得ることが出来、今後はSTの活動自体が地域リハビリテーションであるということ念頭に置きながら、広報活動や研修会参加促進を行って参りたいと思います。

金沢西病院 上野 真由美

2) 石川JRAT活動報告

今だから災害リハビリテーションを学ぶ ～過去の振り返りから現在の取り組みまで～

- 研修会① 令和3年11月16日(火)
講演「能登半島地震における災害支援を振り返る」
【参加人数】46名（会員3名、会員外43名）
- 研修会② 令和3年12月8日(水)
講演「地域包括ケア時代：災害と地域リハビリテーション ～長崎JRATの活動紹介～」
【参加人数】41名（会員5名、会員外36名）
- 研修会③ 令和4年1月29日(土)
講演「石川県版オンラインHUGで学ぶ災害リハビリテーション」
【参加人数】42名（会員2名、会員外40名）
- 研修会④ 令和4年2月22日(火)
講演「令和2年7月豪雨における熊本JRATによるコロナ禍での災害支援活動」
【参加人数】45名（会員3名、会員外42名）

【開催方法】4回共にWeb研修

【概要と感想】

石川JRATでは、今年度も4回シリーズで災害リハに関する研修が開催されました。コロナ禍のため全てオンラインでの開催となり、今回は石川JRATが発足する前の2007年に発生した「能登半島地震」での災害支援の活動紹介や、コロナ禍での感染対策を含めた現在の災害リハビリテーションについてのお話し、そして避難所運営ゲーム（HUG）を通して学ぶ災害リハビリテーションのオンライン実習も行いました。今年度は能登半島での地震が続いていることもあり、参加者の災害に対する意識も少しずつ高まってきており、やはり平時からの備えとして研修を受けていくことは非常に大事であると感じました。

ST士会の災害リハWGからは、会員向けにLINEでの災害時安否確認サービスの運用に向けて登録作業を進めてまいりました。8割近くの会員の方にご登録いただき、これを利用して来年度より安否確認の模擬訓練を行っていく予定です。これも平時からの備えのひとつになればと思っております。

石川JRATでは来年度も引き続き災害リハ研修を行っていく予定です。継続して研修を行うことが平時からの備えとなり、発災時には皆さんが落ち着いて行動できるようになっていただければと思いますので、来年度もご参加お待ちしております。

災害リハビリテーションWGかがやきクリニック 金沢 一恵 ニュースレター2022.3

3) 特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業

1. 石川県立七尾特別支援学校珠洲分校への訪問 珠洲市総合病院 矢内 真実

1) 日程 (合計4回)

- 令和3年5月28日(金) 11:00~15:00 *県リハと同行
- 9月17日(金) 11:00~15:00
- 11月5日(金) 11:00~15:00 *県リハと同行
- 令和4年1月28日(金) 11:00~15:00 *感染拡大のため中止

2) 対象者

学部	内 容
小学部	発音について (構音訓練について)
	発音について (明瞭度)
中学部	吃音について
高等部	発音について (明瞭度)

*対象者への助言は複数回実施しました。

3) 備考

- ・各訪問日とも珠洲病院のPT、OTと一緒に訪問しました。
- ・県リハビリテーションセンタースタッフは重度心身障害のある生徒の受け入れ時より継続的に相談・支援のため来校。一緒に検討しています。
- ・珠洲分校の教員を対象とした職員研修「こどもの口腔機能」(10月29日)
- ・例年依頼のあった地域の保育園・小学校等への訪問依頼は今年度ありませんでした。

2. 石川県立七尾特別支援学校輪島分校への訪問 市立輪島病院 水上 匡人

1) 日程 (合計2回)

- 令和3年7月2日(金) 10:30~15:30
- 12月10日(金) 11:00~15:00

2) 対象者

学部	内 容
小学部	コミュニケーションについて (発話速度調整に対するアドバイス)
中学部	不明瞭な発音について (構音評価、構音訓練のアドバイス)
	嚥下機能について (嚥下体操、緊急時の対応についてのアドバイス)

3) 備考

- ・2回とも当院作業療法士と訪問しました。
- ・対象者2名とも継続して助言指導を行いました。
- ・事前に対象として挙がらなかった生徒の食事摂取方法について質問がありアドバイスをを行いました。

3. 石川県立七尾特別支援学校への訪問

公立能登総合病院 藪越 文佳

1) 日程 (合計3回)

令和3年7月6日(火) 10:00~14:00

11月1日(月) 10:00~14:00

令和4年2月7日(月) 10:00~14:00

2) 対象者

学部	内 容
小学部	不明瞭な発話について (構音評価。音韻認識、文字理解へのアドバイス)
	他者とのコミュニケーションを伸ばす関わりについて (要求・PECSの導入)
	摂食・咀嚼について (咀嚼の発達段階評価。一口量、口腔器官の運動などをアドバイス)
	口腔器官の運動発達について (食事場面の評価から顎のコントロール、口唇閉鎖の介助方法、感覚刺激等のアドバイス)
	発音について (構音評価。失調性の構音障害について舌運動と発音練習)
中学部	発音について (発話観察から授業内でできる発音指導についてアドバイス)
高等部	発音について (発話観察から授業内でできる発音指導についてアドバイス)

3) 備考

- ・対象者2名は継続的な助言指導を行い、他のお子さんにも共通する問題についても助言しました。
- ・対象者のうち4名は過去に担当者が言語療法を実施していました。
- ・各回ともに小学部1年生の授業参観を行いました。2月には中学部、高等部の授業参観を行い、参観中に気になったお子さんについて意見交換を行いました。

4. 石川県立いしかわ特別支援学校への訪問

言語聴覚士 太田 朗子

1) 日程 (合計2回)

令和3年7月7日(水) 11:00~13:00

12月10日(金) 12:10~14:20

2) 対象者

学部	内 容
小学部	反芻の対処について (感覚受容の整理と遊びの拡大、食事介助とコミュニケーションの促進)
	発語および発話明瞭度の向上について (構音についての助言、自発的コミュニケーションの手段の拡大)
中学部	言語理解向上について (音声言語理解および音声言語表出の整理、実用的・機能的コミュニケーションの習得、視知覚能力および粗大運動能力の整理)

3) 備考

- ・見学と相談・助言を同日に行いました。
- ・同一児童に対し見学、相談・助言を2回行うようにしました。
- ・時間的に2回目の見学ができない場合はビデオ視聴で確認、相談・助言をしました。

- ・見学後の助言を学校側が録音し、そのまとめをメール送信してもらい、確認して返答し共通理解としました。
- ・今回の連携についてのまとめを提出してもらうこととしました。

5. 石川県立ろう学校への訪問

金沢医療センター 清水 聡子・宗石 順子

1) 日程 (合計4回) 及び担当者

- 令和3年10月19日(火) 9:00~12:30 (清水)
- 12月15日(水) 9:00~12:30 (宗石)
- 令和4年1月25日(火) 9:00~12:30 (清水)
- 2月9日(水) 9:00~12:30 (宗石)

2) 対象者

学部	相談内容
幼稚部	教師との個別指導についてのアドバイス依頼。本児からの発信を増やす関わり・文字の習得に向けてのアドバイス実施。
小学部	発話不明瞭について相談。構音・言語・コミュニケーションについて評価。音韻操作課題など構音訓練の基礎力強化へのアドバイス。
中学部	発話不明瞭について相談。構音評価。未獲得の音について構音動作の指導実施。
	発話不明瞭について相談。構音評価。音韻操作に難しさが見られたため、書字課題を通して音韻を定着させていくようアドバイスをした。
	発話不明瞭について相談。本児は直接評価や指導にはためらいがあったため、担任の情報から、一般的な対処法についてアドバイスを実施した。
高等部	発話不明瞭について 本人への構音評価・指導
	発話不明瞭について 本人への構音評価・指導

3) 備考

- ・幼稚部1名は当院で聴覚管理・言語訓練中。
- ・小学部1名は当院で聴覚管理中。
- ・高等部1名は当院で長期休み毎の聴覚管理・構音チェックを実施している。昨年度も本事業で介入。
- ・Zoomで構音について研修を実施した (担当清水)。

6. 石川県立明和特別支援学校への訪問

言語聴覚士 太田 朗子

1) 日程 (合計5回)

- 令和3年9月22日(水) 8:50~11:50
- 9月28日(火) 14:30~16:30
- 令和4年1月26日(水) 9:20~12:20
- 1月31日(月) 14:30~16:30
- 2月24日(木) 13:30~15:30

2) 対象者

学部	内 容
小学部	コミュニケーションと構音の明瞭度について（コミュニケーションの整理と手段、構音の特性および向上）
高等部	麻痺の影響と構音の改善について（発声発語機能の整理と向上）

3) 備考

- ・見学と相談・助言を行った日と相談・助言のみの日がありました。
- ・見学以外の内容はビデオ視聴で確認しました。
- ・高等部のケースについてはPTトレーニングの必要性も説明し実施されました。
- ・必要なケースについてはメールでの相談を受けました。
- ・最終日は個々の事例についての相談・助言およびコミュニケーション・構音についての全般的な説明をしました。
- ・今回の連携についてのまとめを提出してもらうこととしました。

7. 石川県立小松特別支援学校への訪問 アルバ 個別支援室 山本 千敦

1) 日程（合計4回） *当初は5回予定されていたが、うち1回は感染拡大のため中止。

令和3年11月9日（火） 9:20～14:00

11月15日（月） 9:20～14:00

12月10日（金） 9:20～14:00

令和4年2月18日（金） 9:20～14:00 *Web（Zoom）にて実施

2) 対象者

学部	内 容
小学部	発音が不明瞭になっている原因と発音の改善のための助言
	発音が不明瞭になっている原因と発音の改善のために、楽しんでできる活動や遊びを知りたい
	どうしたら発音が聞き取りやすくなるのか知りたい
	発音が不明瞭になっている原因と発音の改善のための訓練について知りたい
中学部	語彙を増やす方法、気持ちをことばで伝えられる、自信をもって話せるように
	捕食時の口唇閉鎖、異食を減らすためのアドバイス
	摂食、発話明瞭度
	言葉の聞き取りや文字の読み書き、発音、他児とのコミュニケーションへの適切な支援について
	発音やコミュニケーションについての手立て
	より明瞭な発語発話へのアドバイス
少しでも発音が明瞭になって伝わる言葉が増えるように	
高等部	発音がどもる原因や改善に向けた指導法

3) 備考

- ・第4回はオンラインで行いました。カードを選んで渡してもらうなど、直接的なもののやりとり

ができないため、児童生徒さんには「話してもらおう」という課題に偏りがちになりましたが、発話明瞭度のご相談では、マスクを外して口元を提示することができた面が利点でした。

8. 石川県立小松瀬領特別支援学校への訪問

アルバ 個別支援室 山本 千敦

1) 日程 (合計4回)

令和3年9月3日(金) 10:00~15:00
 10月5日(火) 10:00~15:00
 11月26日(金) 10:00~15:00
 12月17日(金) 10:00~13:00

2) 対象者

学部	相談内容
小学部	摂食、コミュニケーション
	摂食
中学部	摂食、コミュニケーション
	摂食、コミュニケーション

*対象児童・生徒さんへの助言は複数回実施しました。

9. 石川県立錦城特別支援学校への訪問

芦城クリニック 勝木 準

1) 日程 (合計4回)

令和3年6月25日(金) 10:25~15:25
 9月24日(金) 10:25~14:25
 12月3日(金) 10:25~14:25
 令和4年1月24日(月) 12:00~17:00

2) 対象者 小学部抽出児童2名、他小学部児童13名

学部	相談内容
小学部	精神運動発達遅滞、口唇口蓋裂術後。発語がはっきりしない、食事の際に牛乳やみそ汁が鼻から出る。→原因及び医療的対応の必要性の説明、クラスで取り組めそうな練習方法の紹介。
	ダウン症。よだれが多く、マスクが濡れ、保護者が非常に気にしている。食事も噛めていない。→口を閉じる必要性の説明、ぶくぶくうがいのお勧め、閉口・咀嚼練習の相談等。

3) 備考

- ・抽出児童への助言は各訪問日に担任またはコーディネーターに行いました。
- ・2回目以降は訪問前に前回からの変化や質問等についてメール連絡をもらいました。
- ・職員研修会：小学部教員14名対象 70分 (令和4年1月24日)
 テーマ：「食べる・話す・よだれの改善」
 今年度の相談への回答・背景の説明を小学部の教員全員で共有できるように、演習を交えながら行いました。また、コーディネーターの先生より私の助言を受けて取り組んだ内容と現状についての簡単な報告がなされました。

8. 失語症者向け意思疎通支援者養成講習会報告

やわたメディカルセンター 田畑 美香

令和3年度石川県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会は9月25日(土)～12月11日(土)、全9回の日程で開催されました。今年度は5名の応募があり、無事全員が修了されました。昨年度と合わせて、石川県の「失語症者向け意思疎通支援者」は15名になりました。

12時間の講義では失語症の基礎知識の他に倫理や失語症者の生活やニーズなども学び、28時間の豊富な実習では失語症者の協力を得て、実際にやりとりを行いました。今年度の外出同行支援実習は能美市防災センターで実施し、地震・強風・消火等の体験や3D映画の視聴後、展示コーナーを回り、感想などを話し合いました。

全体を通して受講生の皆さんは熱心に学ばれ、アンケートでは次のような感想がありました。

- ・失語症者の方と直接関わる時間が多く、本当に勉強になった。
- ・伝わった時の喜び、共感できたときのうれしさを感じた。
- ・仕事で日頃何気なく会話していたが、講習会に参加してから相手に合わせてゆっくり話すように心がけている。

協力いただいた失語症者の講師の皆さんも受講生と会話することを楽しまれ、今後も実習に協力したいとお話がありました。

また、今年度は新たな取り組みを3つ実施しました。

① 石川県失語症友の会以外の当事者講師の参加

県士会会員にご協力いただき、外来リハビリで関わっている失語症者の方5名に参加いただきました。担当のSTより新たな側面が見られた、という意見や、担当のケアマジャーより社会参加の場になってよかったという意見が寄せられました。

② 失語症者向け意思疎通支援者の実習参加

昨年度の受講者で、希望された方に実習に参加していただきました。

③ 県士会会員の見学

事業の理解を深めてもらうため、見学者を募集し、1名の見学がありました。

コロナ禍の情勢が続いてはおりますが、今後も石川県失語症友の会や当事者の皆様、県との連携を強化し、派遣事業開始に向け邁進していきたいと思います。今後ともより多くの会員のご協力をお願いいたします。



9. 関連団体主催行事などへの参加活動

1) 公益社団法人 石川県脳卒中リハビリテーション協会への講師派遣

	日 時	地 区	病 院	S T	会 場
令和3年度	1月12日 午後1時30分～3時	内灘町	城北病院	長原 幸穂	内灘町役場会議室
	1月19日 午前10時30分～12時	かほく市	二ツ屋病院	徳田 紀子	かほく市七塚健康福祉センター
	2月 7日 午前10時15分～11時45分	金沢市		村上 美矢子	石川県社会福社会館別館
	2月24日 午前10時30分～12時	小松市	小松市民病院	田嶋 宏太郎	小松サン・アビリティ
	3月 2日 午後1時～2時20分	加賀市	小松市民病院	田嶋 宏太郎	河南地区会館 (旧山中健康センター)
	3月28日 午前10時～11時30分	津幡町		村上 美矢子	井上コミュニティプラザ

2) 石川県失語症友の会研修会・月例会での協力施設

	金沢本部・西支部	加賀支部	能登支部	珠洲支部
5月	開催なし	開催なし	開催なし	開催なし
6月	地区別研修会 開催なし			
8月	開催なし	日時:8月21日(土) 14:00~15:30 場所:小松サンアピリティ 担当:小松市民病院 川邊、田嶋、大下 参加者:会員3名、家族2名 会員外0名、見学0名	日時:8月21日(土) 13:30~15:00 場所:フォーラム七尾 担当:恵寿総合病院 諏訪、荒尾、藪下 参加者:会員3名、家族1名 会員外0名、見学0名	開催なし
9月	合同研修会 開催なし			
11月	日時:11月20日(土) 14:00~16:00 場所:金沢市ものづくり会館 担当:公立つぎ病院 和田、岩本 参加者:会員6名、家族5名 会員外0名、見学0名	日時:11月20日(土) 14:00~15:45 場所:小松サンアピリティ 担当:小松ソフィア病院 朴木 参加者:会員5名、家族3名 会員外0名、見学0名	日時:11月20日(土) 13:30~15:00 場所:フォーラム七尾 担当:公立能登総合病院 林、浜田 参加者:会員2名、家族0名 会員外0名、見学0名	日時:11月20日(土) 13:30~15:00 場所:珠洲市総合病院 担当:珠洲市総合病院 加藤、米田 参加者:会員2名、家族2名 会員外4名、見学0名
2月	開催なし	開催なし	開催なし	開催なし

3) 金沢市フレイル予防事業

【年間活動報告】

この事業は、金沢市からの委託を受けた金沢・健康を守る市民の会が市民全体で健康長寿のまちづくりを図ることを目的に実施しているものです。言語聴覚士会からは村上会員と上野が派遣されています。専門職の立場で村上会員はすでにフレイルトレーナーとして活動されていますが、1年後に参加することになった私は、候補生として活動させていただいております。主な年間の活動としては、フレイルチェックの実践、フレイル予防出前講座、フレイルサポーター養成講座、フレイルチェック練習会、フレイルサポーター連絡会を行いました。今年度当初の予定としては、すべてをあわせて48回の開催を予定しておりました。新型コロナウイルス感染の拡大防止の為にほぼすべての活動が中止となった前年度と比べると、今年度は規模を縮小しての開催予定でしたが、前年度同様中止、延期を余儀なくされることもありました。問題は、フレイル予防の為の事業であるにも関わらず、コロナフレイルが急増しているという現状です。フレイルチェックの回数も減り、外出の機会が減少した中、サポーター自身のフレイル予防が次年度への課題となりました。まずは、フレイルトレーナーを取得し取り組んでまいりたいと思います。

金沢西病院 上野 真由美 ニュースレター2022.3

公益社団法人 石川県言語聴覚士会 2021年度 年報

2022年5月22日 発行

編集・発行 公益社団法人 石川県言語聴覚士会
〒923-8551 石川県小松市八幡イ12-7
やわたメディカルセンター 言語療法室内

TEL：0761-47-1212(代)

URL：<https://st-ishikawa.com/>

E-Mail：info@st-ishikawa.com

印刷所 マルト株式会社



石川県言語聴覚士会
ホームページ